JAICOWS ニュースレター

No.1（1995-9-15 発行）

創刊にあたって

会長　一番ヶ瀬康子

いよいよ軌道に乗った私たちの会のニュース第1号を，お届けいたします．

『科学が人類の将来におおきな影響を及ぼすようになった今日，女性が，科学に対して男性同様に責任を負うべきであると考え，また，負いたいと希望することは当然である．そして，多くの女性が科学研究に参加することによって，科学の一層の発展が期待される．』と『女性科学研究者の環境改善の緊急性についての提言（声明）』（第15期，日本学術会議総会決定）のなかに記されています．その認識をさらに深め，私たち女性科学研究者の人権をまもり，研究条件，生活保障などをはじめとして，諸条件がよりいっそう改善されますことを願い，この会は発足いたしました．

ニュースレターは，会の活動報告，会員の紹介，情報交換などをより推進するために，発刊されたものです．大いに，活用し，皆さまのお力で，会を盛り上げていただきたいと願っています．

お知らせ

☆ JAICOWS 勉強会

女性研究者の今後への期待
－これまでの研究をふまえて－

日時　1995年11月4日（土）15:00～17:00

場所　お茶の水女子大学附属図書館第2会議室
（地下鉄丸の内線茗荷谷駅又は有楽町線護国寺駅下車徒歩5分，春日通りの門から入る）

内容　15:00～16:00

お話　『婦人研究者のライフサイクル調査研究（昭和57-59）』をふまえて

猿橋　勝子氏（元日本学術会議会員）
坂東　昌子氏（愛知大学）

16:00～17:00　討議

女性研究者の現状と課題について1982～84年にかけて具体的に調査なさった成果と今後への期待についてのお話を伺い，その上で多様な立場からの意見の交換をして，前向きで建設的な時間を過ごしたいと存じます．友人をお誘いになってふるってご参加下さいませ．

なお，猿橋勝子・塩田庄兵衛編著『女性研究者-あゆみと展望』（ドメス出版），坂東昌子ほか『女性と学問と生活』（勁草書房），加野芳正『アカデミック・ウーマン』（東信堂）が参考になると存じます．

JAICOWS 代表　一番ヶ瀬康子
調査研究プロジェクト世話人　浅倉むつ子
加藤春恵子
直井道子
馬場房子
原ひろ子

お問い合わせ先：お茶の水女子大学女性文化研究センター
原ひろ子研究室 Tel 5978-5843，Fax 5978-5845

☆ シンポジウム

「女性科学研究者の環境改善をめざして」

主催　日本学術会議第2常置委員会
共催　女性科学研究者の環境改善に関する懇談会

日時　1995年12月15日（金）13:00～16:30

会場　日本学術会議講堂，TEL(03)3403-6291
（東京都港区六本木7-22-34，地下鉄千代田線「乃木坂」駅下車，青山霊園方面出口徒歩1分）

プログラム

開会挨拶　中塚 明（日本学術会議第2常置委員会委員長）

挨　拶　伊藤 正男（日本学術会議会長）

総合司会　丹羽 雅子（熱工学研究連絡委員会委員，奈良女子大学生活環境学部教授）
鳥居　淳子（国際関係法学研究連絡委員会委員，成城大学法学部教授）

「女性の理工系分野への進学とその背景
－大学婦人協会の調査から－」　田中 正子
（東京工業大学資源化学研究所助手）

「女性科学研究者への期待」　猿橋 勝子
（元日本学術会議会員）

「女性科学研究者の環境改善に対する期待」
原 ひろ子
（文化人類学，民俗学研究連絡委員会委員，お茶の水女子大学女性文化研究センター教授）

［自由討論］

シンポジウム司会　一番ヶ瀬 康子
（前日本学術会議会員，社会福祉・社会保障研連絡委員会委員，東洋大学社会学部教授）

閉会挨拶　島田 淳子
（日本学術会議第6部会員，お茶の水女子大学生活科学部教授）

入場無料 皆様のご参加をお待ちしています．

【第1回 調査プロジェクト部会報告】

浅倉 むつ子

■ 95年7月15日(土)に第1回の調査プロジェクト部会が，お茶の水女子大学で開かれ，22名中18名が出席されました．超ご多忙な方々が多いにもかかわらず，盛会で嬉しい限りでした．部会のメンバーについては庶務報告をご参照下さい．内容はつぎの通りです．

■ 2時～3時：調査研究に取り組む今後の方針について

■ 3時～5時：先行研究についての勉強会(役員会と合同)

報告(浅倉むつ子+原ひろ子)プラス討論(全員)

■ 今後の調査研究に関して，参考になる多くのご意見が出されました．主だったものを以下にご紹介します．

現段階での調査はポイントをしぼって提言にまで持ち込む必要がある／研究者の世代間ギャップに注目したい／先行調査の繰り返しではなく具体的な行動を起こさせるような調査を／大学内のセクシャルハラスメントにも関心を払い具体的な苦情処理機関を／結婚，出産と研究との両立の問題／戦後５０年をにらみ，女性の研究が学問に与えた影響について分析，評価しておくべき／社会環境を変える必要がある／すべての学問分野を網羅しているこの懇談会の特徴を生かすべき／女性の中だけで固まらないことも重要／調査をするのなら問題意識が喚起されるようなものを／大学単位の調査ではなく，学会単位の状況をみるような調査／動態的に変化をたどれるようなものを／女性研究者自身の意識の問題も忘れるべきでない／研究者を志して途中でドロップアウトした人達にも配慮すべき／男女を対象にした調査／業績主義の見直しも必要／業績審査基準について外国の例を参考にできるのではないか，等々．

■ 9月半ば以降，文部省の科学研究費を申請することを確認しました．上記の意見を参考にしながら，部会の世話人(浅倉+加藤+直井+馬場+原)を中心に書類を作成してゆく予定です．

■ 部会が入手している参考文献のリストは以下の通りです．欠落している情報をお知らせ下さい．

(1) 京都婦人研究者連絡会『女性と学問と生活－婦人研究者のライフサイクル資料編』(1981年10月)，(2) 坂東昌子ほか『女性と学問と生活』(1981年11月 勁草書房)，(3)『婦人研究者のライフサイクル調査研究 報告Ⅰ』(1983年10月)，(4)『婦人研究者のライフサイクル調査研究 資料Ⅰ』(1983年12月)(5)『婦人研究者のライフサイクル調査研究Ⅲ 報告１』(1984年6月)，(6)『婦人研究者のライフサイクル調査研究Ⅳ』(1984年6月)，(7)『婦人研究者のライフサイクル調査研究Ⅴ』(1984年8月)，(8)『婦人研究者のライフサイクル調査研究[参考資料]－女性と科学研究－未来への提言』(1985年1月)，(9) 猿橋勝子・塩田庄兵衛編著『女性研究者－あゆみと展望』(1985年7月 ドメス出版)，(10) 加野芳正『アカデミック・ウーマン』(1988年 東信堂)，(11) お茶の水女子大学女性文化研究センター「女性研究者と社会変化」研究プロジェクト『女性研究者現状調査・１９９１最終報告書』(1991年6月30日)，(12) お茶の水女子大学女性文化研究センター『ライフコースの多様化の時代の大学教育と女性』(1994年3月)，(13) 池田裕恵「女子高等教育の軌跡と展望－日本とアメリカの比較的視座から」英和人文社会科学論集No.9 (1994)，(14) 安川悦子「科学研究におけるジェンダーの問題－女性科学研究者の環境改善の緊急性についての提言」(日本学術会議・声明)をめぐって」名古屋市立女子短期大学研究紀要54集(1995)，(15) 安川悦子「近代科学とフェミニズム－ジェンダー偏在とジェンダー偏見の構造」生活文化研究第6集(名古屋市立女子短期大学生活文化研究センター1995)．

【庶務報告】

石井摩耶子
島田淳子

1994.12.19 発起人会開催．

一番ヶ瀬康子(前会員，現研連委員)および島田淳子(現委員)が呼びかけ人になり，両名に加え，各部世話担当研連委員各2名および副会長世話担当研連委員1名の17名による発起人会を開催し，「女性科学研究者の環境改善に関する懇談会(仮称)」の創設を決定した．

1995.1.5 第1回総会(設立総会)開催．

「女性科学研究者の環境改善に関する懇談会」が正式に発足．研連女性委員82名，日本学術会議会員経験者4名，計86名の対象者のうち約半数の39名が出席し，会則および役員組織，今後の活動等について協議し，以下の事項を決定した．

● 会の名称　「女性科学研究者の環境改善に関する懇談会」

● 組織　　全女性研連委員（予定）
　学際的女性科学研究者の広範囲にわたるネットワークが形成されるのは，我が国においても初めてのことである．

● 活動目的　第15期の提言の趣旨を受けて，女性科学研究者の環境改善を推進するため，女性科学研究者自らがその具体的方策等について検討する．

● 会則　目的，事業内容，役員および運営などを明確にするため裏面のように会則を決定．

● 役員会組織　会長一番ヶ瀬康子（前会員，現研連委員）他，役員を選出した．（別紙名簿*印）

● 行動計画　女性科学研究者自身が何をなすべきか，具体的な行動計画と組織づくりについて検討を行った．今後も会員の意見を聴取しながら役員会で取りまとめ，提案の形で次回の臨時総会に諮ることとした．

1995.1.20　設立総会の議論を受けて，「女性科学研究者の環境改善に関する懇談会」のあり方についてのアンケートを実施することとした．

1995.3.30　アンケートの集計を基に臨時総会への提案事項等について協議した．

1995.3.30　第2回総会（臨時総会）開催．
　アンケート調査の結果に基づいて協議を行い，以下の事項を決定した．

活動内容

1. 日本の女性科学研究者の現在の環境に関する学問分野別の調査およびその改善方策の研究．
2. 女性科学研究者の環境改善に関するシンポジウムを今年12月を目途に開催する．
3. ニュースレターの発行．

その他

会の英語名(略称)を Japanese Association for the Improvement of Conditions of Women Scientists (JAICOWS) とする．

1995.5.2　第2回役員会開催．
会の活動の方法について具体的な協議をし，以下の事項を決定した．

1. 学術会議第2常置委員会・研究者の養成・確保と教育特別委員会合同学術研究総合調査の調査項目に，女性の視点を加えるよう申し入れる．
2. 本懇談会独自の調査研究の費用を得るため，平成8年度に向けて文部省科学研究費を申請する．
3. シンポジウムを1995年12月15日に開催する．
4. 調査研究プロジェクト部会．
   1月に実施したアンケート調査への回答で，調査研究に参加する意志を表明した人々を中心に，調査研究プロジェクト部会を発足させることとし，世話人は浅倉むつ子・加藤春恵子・直井道子・馬場房子・原ひろ子の5人が当たることとした．

1995.7.15　第1回調査研究プロジェクト部会．
メンバーの確認．
浅倉むつ子・池田裕恵・石井摩耶子・一番ヶ瀬康子・岩崎芳枝・垣本由紀子・加藤春恵子・木野内清子・玄番央恵・小島操子・島田淳子・島村礼子・下村道子・田端光美・土器屋由紀子・鳥居淳子・直井道子・永井玲子・丹羽雅子・馬場房子・原ひろ子・森島啓子．

1995.7.15　調査研究プロジェクト勉強会開催
9月中旬に科研費の申請を行う件を協議．先行研究の紹介(浅倉むつ子・原ひろ子)．

1995.7.15　第3回役員会開催．
今後の活動について具体的に協議．
ニュースレター第1号を1995年9月15日に発行することを決定．

女性科学者の環境改善に関する懇談会
Japanese Association for the Improvement of Conditions of Women Scientists)
【連絡先】島田淳子
〒112 文京区大塚2-1-1.
お茶の水女子大学生活科学部
Tel:03-5978-5761, Fax:03-5978-5760.

「女性科学研究者の環境改善に関する懇談会」会則

１９９５年1月5日　総会決定

（名称）

第１条　本会は「女性科学研究者の環境改善に関する懇談会」と称する.

（目的）

第２条　本会は日本学術会議第１５期の「女性科学研究者の環境改善の緊急性についての提言（声明）」の趣旨を受けて，女性科学研究者の環境改善のより具体的な推進のため，女性科学者自らがその具体的方策等について検討することを目的とする.

（事業）

第３条　本会は，前条の目的を達成するため，次の事業を行う.

（1）女性科学研究者の環境に関する実態調査

（2）女性科学研究者の環境改善に関する討議と提言・要望

（3）女性科学研究者自身が行うべき実践課題の検討

（4）その他本会の目的を達成するために必要な事業

（組織）

第４条　本会は日本学術会議研究連絡委員会女性委員，その他必要に応じて適格者を会員として組織する.

（役員）

第５条　本会に役員として会長１名，副会長２名，幹事若干名，監事2名を置く.

2　役員は総会において選出する.

（役員の職務）

第６条　会長は本会を代表して会務を統轄し，総会および役員会を招集する.

第７条　副会長は会長を補佐し，必要な場合にはその職務を代行する.

第８条　幹事は日常の会務を執行する.

第９条　監事は会務執行および会計状況の監査を行う.

2　監事は他の役員を兼ねることができない.

（役員の任期）

第１０条　役員の任期は三年とする.

（総会）

第１１条　総会は毎年一回定例総会を開催し，必要に応じて臨時総会を開催する.

2　総会は会長がこれを主宰する.

第１２条　総会の議決は出席会員の過半数をもって決する.

（運営）

第１３条　本会の運営経費は会員の会費，寄付金その他の収入をもってこれに充てる.
会費は別に定める.

（その他）

第１４条　本会則の改訂は総会の議決を経る.

付則　本会則は決定と同時に施行する.

JAICOWS 名簿 (1995.8.20)

氏名	部名	研連	所属	
青柳真智子	1.4	文化人類,人群	立教大学文学部教授	
浅倉むつ子	2	社会法	東京都立大学法学部教授	*
跡見順子	7	体力	東京大学大学院総合文化研究科教授	
阿部幸子	6	蚕糸	青山学院女子短期大学家政学科教授	
池田裕恵	1	体育	東洋英和女学院大学人文学部教授	
池端雪浦	1	東洋	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授	
石井摩耶子	副	平和問題	恵泉女学園大学人文学部教授	*
石川幹子	5	都市地域	東京都立大学都市研究所客員研究員	
石田瑞穂	4	地震	防災科学技術研究所地圏地球科学技術研究部地震活動研究室長	
一番ヶ瀬康子	1	福祉	東洋大学社会学部教授	*
岩崎不二子	4	結晶	電気通信大学電気通信学部教授	
岩崎芳枝	6	家政	郡山女子大学家政学部教授	
漆原和子	4	地理	駒沢大学文学部教授	保
大隅正子	4	植物	日本女子大学理学部教授	*
大谷陽子	6	家政	宇都宮大学教育学部教授	
太田陽子	4	第四紀	専修大学文学部教授	
大塚榮子	副	生化学	北海道大学薬学部教授	
大野　浪	5	金属,金属(表面・界面)	東京工業大学工学部助教授	*
大本美彌子	7	環境保健	東邦大学医学部教授	
小川智子	4	遺伝(遺伝子)	大阪大学理学部講師	
加賀谷淳子	1	体育	日本女子体育大学体育学部教授	
垣本由紀子	5	安全	防衛庁航空医学実験隊部長	
川端晶子	6	栄養	東京農業大学農学部教授	
菅家甫子	7	医薬	共立薬科大学教授	
木野内清子	6	家政	大妻女子大学家政学部教授	
貴邑富久子	7	生理	横浜市立大学医学部教授	
木村真知子	1	体育	奈良教育大学教育学部助教授	
栗原尚子	1	人文地理	お茶の水女子大学文教育学部助教授	
桑原洋子	1	福祉	龍谷大学社会学部教授	
玄番央恵	7	生理	関西医科大学教授	
小池裕子	4	第四紀	九州大学大学院比較社会文化研究科教授	
古賀節子	1	教育	青山学院大学文学部教授	
小島操子	7	精神	聖路加看護大学教授	*
郷　通子	4	分子	名古屋大学理学部教授	
酒井シヅ	7	医史	順天堂大学医学部教授	
酒井豊子	6	家政	放送大学教養学部教授	
坂倉照好	4	細胞	三重大学医学部教授	
佐々木良	副	情報(文献)	国立国会図書館科学技術資料課長	
重定南奈子	4	生態	奈良女子大学理学部教授	
篠塚則子	5	環境	東京大学生産技術研究所助教授	
島田淳子	6	広報,家政	お茶の水女子大学生活科学部教授	*
島村礼子	1	語学	津田塾大学学芸学部教授	
下村道子	6	家政	大妻女子大学家政学部教授	
鈴木益子	6	微生物	東北薬科大学薬学部教授	
高野加寿恵	7	内分泌	東京女子医科大学教授	
田端光美	1	福祉	日本女子大学人間社会学部教授	
富樫茂子	4	鉱物(鉱床)	地質調査所地殻化学部同位体地学課長	
時子山ひろみ	3	経済統計	日本女子大学家政学部教授	
鳥居淳子	2	国際関係	成城大学法学部教授	*
土器屋由紀子	6	自然保護	気象庁気象大学校教授	
内藤道子	6	家政	山梨大学教育学部教授	
直井道子	1	社会	東京学芸大学教育学部教授	
中川昌子	7	化・物薬	千葉大学薬学部教授	
中安定子	6	農業総合	東京農業大学嘱託教授	
永井房子	6	家政	相模女子大学短期大学部教授	
永井玲子	4	植物	大阪大学理学部教授	
西澤直子	6	土壌	東京大学大学院農学生命科学研究科助手	
西村和子	6	微生物	千葉大学真核微生物研究センター感染研究部門教授	
丹羽雅子	5	熱,熱(熱物性)	奈良女子大学生活環境部教授	*
原ひろ子	1	文化人類	お茶の水女子大学女性文化研究センター教授	*
春山成子	6	農業土木	早稲田大学教育学部講師	
馬場房子	1	行動	亜細亜大学経営学部教授	
日野川静枝	4	科学史	拓殖大学商学部助教授	保
藤井儔子	7	毒	帝京大学医学部薬理学教室教授	*
増田啓子	6	地域農学	国立環境研究所地球環境研究ｸﾞﾙｰﾌﾟ主任研究員	
水野紀子	2	民事法	名古屋大学法学部教授	
三宅千枝	副	原子力(核燃)	大阪大学工学部教授	
宮本美沙子	1	心理	日本女子大学学長・理事長	*
森島啓子	4,6	遺伝,遺伝育種	国立遺伝学研究所教授	
梁瀬度子	6	家政	奈良女子大学生活環境学部教授	
山口規容子	7	出生	恩賜財団母子愛育会総合母子保健センター保健指導部長	
横内陽子	4	極地	国立環境研究所主任研究員	
横山弥生(研)	2	環境法学	東京経済大学経済学部教授	
吉沢英子	1	福祉	大正大学人間学部教授	
吉田佐柄子	6	農村計画	農林水産省農業者大学校特別委員	
笠　耐	4	物理,物理(一般)	上智大学理工学部講師	

（専門）

加藤春恵子	前会員	（社会学）	東京女子大学教授
猿橋勝子	元会員	（地球化学）	女性化学者に明るい未来をの会専務理事
林　雅子	前会員	（家政学）	文化女子大学教授
安川悦子	前会員	（経済学）	名古屋市立大学教授